

企業は“国難”に どう立ち向かうのか？

—巨大地震災害と感染症パンデミック—

2013年10月28日(月) 13:00～17:00 (12:30開場)
学術総合センター ■ 一橋講堂 ■ 中会議場1～4

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2丁目 1-2 TEL.03-4212-6321
(東京メトロ半蔵門線、または都営地下鉄三田線・新宿線 神保町駅より徒歩約3分)

申込方法 関西大学社会安全学部ホームページからお申し込みください。

http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_ss/

定員 500名 第2会場 定員:各30名 (申込者多数の場合は抽選)

参加費 無料



3会場に分かれて、セッション、体験型演習及び学生による研究発表を同時に実施します。

第1会場 13:00～17:00 国難セッション(一橋講堂)

司会 高野 一彦 (関西大学社会安全学部教授)
開会挨拶 13:00～13:05 小澤 守 (関西大学社会安全学部長、教授)

第一部 13:05～14:45

巨大地震災害の企業が想定すべきワーストシナリオ

高嶋 哲夫 (作家)
藍原 寛子 (フリージャーナリスト)
河田 恵昭 (関西大学社会安全学部教授、社会安全研究センター長)

休憩 14:45～15:15

第二部 15:15～16:55

感染症パンデミックの企業が想定すべきワーストシナリオ

岡部 信彦 (川崎市健康安全研究所所長、元国立感染症研究所感染症情報センターセンター長)
前田 秀雄 (東京都福祉保健局技監)
藍原 寛子 (フリージャーナリスト)
高鳥毛 敏雄 (関西大学社会安全学部教授)

閉会挨拶 16:55～17:00 小澤 守

第2会場 13:00～16:45 体験型危機管理演習(中会議場3・4)

第一部 13:00～14:30 図上演習

危機管理に関する国際規格ISO22320において要求されている基本的な事項、とりわけ状況認識の共有や危機管理計画などについて、その概念と実際を簡単な演習で学びます。

講師:永松 伸吾 (関西大学社会安全学部准教授)

定員:30名 (申込要、申込者多数の場合は抽選 ※聴講のみは申込不要)

第二部 15:15～16:45 リスクコミュニケーション演習

震災瓦礫処理の受け容れ是非のリスクミゲームを実演します。対話相手の社会的属性や価値観によってリスクコミュニケーションが変わることを、行政役と住民役の役割を交互に演じて理解します。

講師:広瀬 幸雄 (関西大学社会安全学部教授)

定員:30名 (申込要、申込者多数の場合は抽選 ※聴講のみは申込不要)

第3会場 13:00～16:45 学生によるパネル研究発表(中会議場1・2)

関西大学社会安全学部において危機管理、防災・減災、事故防止、コンプライアンスなどを研究している学部生による研究報告のパネル展示を行います。

講演者 プロフィール

■ 藍原 寛子 HIROKO AIHARA



フリージャーナリスト。福島県福島市生まれ。福島民友新聞社から国会議員公設秘書を経て、現在に至る。医療政策分野での取材実績が多く、地域の医師不足を追った「医者足りない!」では主筆としてファイザー製薬医学記事賞を受賞。オーストラリアケープルカー火災事故、阪神淡路大震災、臓器移植や骨髄移植などを取材。現在は東日本大震災からの復興に関しても積極的に取材を行っている。米国マイアミ大学メディカルスクール客員研究員、フィリピン大学哲学科客員研究員、アテネオ・デ・マニラ大学フィリピン文化研究所客員研究員などを歴任。フルブライター。日本医学ジャーナリスト協会会員。

■ 岡部 信彦 NOBUHIKO OKABE



1946年生まれ。1971年東京慈恵会医科大学卒業。医学博士。専門は小児科学、感染症学、感染症疫学。慈恵医大小児科、神奈川県立厚木病院小児科、都立北療育園小児科などを経て、78-80年米バンダービルト大学小児科感染症研究室研究員。帰国後、国立小児病院感染科、神奈川県衛生看護専門学校付属病院を経て、91年WHO西太平洋地域事務局伝染性疾患予防対策課課長、95年慈恵会医科大学小児科学講座助教授、97年国立感染症研究所感染症情報センター室長、センター長を経て、2012年より川崎市健康安全研究所長。内閣官房新型インフルエンザ等対策有識者会議「医療・公衆衛生に関する分科会」会長。厚生省・予防接種ワクチン分科会会長。感染症予防やインフルエンザについて著書多数。

■ 高嶋 哲夫 TETSUO TAKASHIMA



1949年、岡山県玉野市生まれ。慶應義塾大学工学部卒、同大学院修了。在学中、電子技術総合研究所で核融合研究を行う。その後、日本原子力研究所研究員(1979年、日本原子力学会技術賞受賞)を経てカリフォルニア大学に留学、作家に転身。『帰国』で第24回北日本文学賞、『メルトダウン』で第1回小説現代推理新人賞、『イントゥルーダー』で第16回サントリーミステリー大賞受賞。『ミッドナイトイーグル』は日米共同製作で映画化。また風力発電を題材とした『風をつかまえて』は第56回青少年読書感想文全国コンクール課題図書(高等学校)に選定されている。

■ 前田 秀雄 HIDEO MAEDA



東京都福祉保健局技監、(公財)東京都医学総合研究所理事長。東京都出身、日本医科大学卒。東京都庁入庁後、東京都健康安全研究センター所長、健康危機管理担当部長、保健政策部長などを歴任。感染症対策課長在職時にSARS、感染症危機管理担当部長在職時に新型インフルエンザAH1N12009への対策を担当。

現在、厚生科学審議会感染症分科会委員、日本公衆衛生学会感染症専門委員などを務める。

■ 小澤 守 MAMORU OZAWA



関西大学社会安全学部長・社会安全研究科長、教授。2010年本学部・研究科開設時から副学部長(大学院担当)を務め、2012年10月から現職。大阪大学大学院工学研究科博士課程修了、工学博士。大阪大学、神戸大学を経て関西大学着任。工学部機械工学科教授、システム理工学部長を歴任し、社会安全学部発足とともに移籍。日本機械学会動力・エネルギーシステム部門長、日本伝熱学会副会長などを歴任。原子力研究開発機構もんじゅ安全委員会委員長代理。Steam Power Engineering (Cambridge University Press)などの著書や熱工学分野の業績多数。日本伝熱学会や可視化情報学会の学術賞、技術賞受賞。

■ 河田 恵昭 YOSHIAKI KAWATA



関西大学社会安全学部教授、社会安全研究センター長。工学博士。専門は防災・減災。現在、阪神淡路大震災記念人と防災未来センター長(兼務)。京都大学名誉教授。京大防災研究所長を歴任。2007年国連SASAKAWA防災賞、09年防災功労者内閣総理大臣表彰。東日本大震災復興構想会議委員。政府の中央防災会議に設けられた、東海地震、首都直下地震、東海・東南海地震など、大規模水害対策、地方都市における地震防災対策などに関する専門調査会の座長・副座長・委員を歴任。現在、日本災害情報学会会長、中央防災会議防災対策実行会議委員など。

■ 高鳥毛 敏雄 TOSHIO TAKATORIGE



関西大学社会安全学部教授。1981年大阪大学医学部卒。大阪府衛生部、大阪府立病院、1988年より大阪大学医学部公衆衛生学講座を経て、2010年から関西大学社会安全学部に着任。専門は公衆衛生学、結核対策、食品安全、イギリスの公衆衛生制度。阪神・淡路大震災の折には応急仮設住宅入居者の健康調査を担当。堺市学童集団下痢症(腸管出血性大腸菌O157)においては疫学調査を担当。また全国一罹患率の高い大阪の結核対策を大阪府・市と取り組んでいる。放送大学客員教授、大阪大学及び京都大学非常勤講師などを務める。

■ 広瀬 幸雄 YUKIO HIROSE



関西大学社会安全学部教授。環境心理学・社会心理学を専門とし、リスクコミュニケーション論、環境リスク論などを担当。京都大学文学部卒業、同大学院博士課程退学。博士(心理学)。名古屋大学名誉教授。高濃度放射性廃棄物処分政策での市民参加に関する国際比較調査研究や討論型世論調査など市民参加型会議のゲームシミュレーション研究を行っている。著書に「環境と消費の社会心理学」(名古屋大学出版会)「環境行動の社会心理学」(編著北大路書房)「仮想世界ゲームから社会心理学を学ぶ」(編著ナカニシヤ出版)など。日本シミュレーション&ゲーミング学会賞、日本心理学会優秀論文賞、廃棄物学会論文賞など受賞。

■ 永松 伸吾 SHINGO NAGAMATSU



関西大学社会安全学部准教授。1972年福岡県北九州市生まれ。大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程退学、同研究科助手。2002年より神戸・人と防災未来センター専任研究員として行政職員の防災研修や地方防災行政について研究を実施。2007年より独立行政法人防災科学技術研究所特別研究員を経て2010年より現職。専門は災害経済学、地域経済復興、危機管理など。日本計画行政学会奨励賞(2007年)、主著「減災政策入門」(弘文堂)にて日本公共政策学会著作賞(2009年)。村尾有英会学術奨励賞(2010年)。